

## 山形県現代俳句協会会報

第28号  
令和5年7月

## もう一度風景を詠もう

山形県現代俳句協会会長 大類つとむ

現代俳句協会に所属していると言うと、俳句についてさほど詳しくない人たちから「ああ、季語の有る無しも、五七五もあまりこだわらない方ですね」と言われる事が少なくない。こちらの方がびつくりしてしまう瞬間である。これを読んでいる諸氏には言わずもがなだろうが古典も現代もさしたる変わりはない。「俳句」であると思っている。少なくとも古典と現代に於いて言えば、万葉集や古今集の歌と現代の短歌ほどの確かな違いは俳句には無いと言ってよいであろう。諸氏さまさまの考え方と矜持があるであろうが、少なくとも私は目の前のもの（ことではない）を季節の言葉を通して、十七音律にのせてしっかり言い表す事を最大の俳句美と思っている。私は近年の俳句作品（総会誌、結社誌、新聞俳壇、大会投句その他）の中に「風景句」がめっきり見受けられなくなった事に少なからず危機感を抱いている。近年よく見受けられる形は、日々のうつろいに動く心や社会への焦燥感、惨事への嘆き等々を十二音で語り、上か下に五音の季語を付けるという手合の句である。勿論決して悪い事ではない。秀句好句も山ほどある。

子規は俳句の堅実な作句法と好句への道として、「写生」を強く言いつづけた。何よりの好例は子規の俳句そして短歌である。そこから改めて現代の俳句は歩みはじめたと言ってよい。しかし、その後の社会の不条理や、第二次世界大戦の敗北の惨状とその大きな社会変化、その後の幾多にもわたる自然災害など、私たちは山や川や花や風など雪月花を詠んで悦に入っていることなどできなくなつたのであろう。一句に思いを込めて何かを言い放ちたくないのである。昔そうであったような俳句即風流などいう事もすっかり俳人達は捨ててしまおうとさえしているのではないか。それが「現代俳句」と言えばそれまでだが、十七音律と秀句という俳句の根元を改めて考えてみても、日本語が最も美しく響き、最も覚え易く、最も忘れにくいこの形を見直し、更には昔も今も然程に変わらぬ自然への感謝と賛美により親しまれた季語を生かしつつ、もう一度山や川や花や風や動物や虫たちを詠んでみようと思うのである。これは、私自身忘れていた空と地と生活への敬意の外なにもでもない事である。よく「いかに俳句らしい、俳句臭い・・・」等と悪しき事のように言われる声を耳にする。俳句らしくて良いではないか。俳句の匂いがプンプンしてよいではないか。肝心な事は、その句の下に堂々と自分の名前を入れられるかという事である。

## 現代俳句の秀句を読む 5

さみしくて口を涼しむ薄荷糖 村越化石

句集「山国抄」（一九七四年）所収

化石の句に興味を持ったのは「生きてゐることに合掌柏餅」の句に出会ったことが始まり。柏餅一つに生死を重ねて詠むとは、どのような境涯のひとか？また俳号が「化石」とは？

村越化石は十六歳でハンセン病に罹患、静岡の旧制中学を中退し、東京の病院を転院していく中で俳句と出合う。俳号は故郷にも戻れず、世にも出られぬ境遇を、土に埋もれた化石になぞらえたものと言っている。その後伴侶を得て、草津の栗生楽泉園で生涯を送る。特効薬が発明され病は完治するが、その副作用で目を患い両眼とも視力を失ってしまう。壮絶な人生に言葉もない。

掲句は角膜炎を治療中の作品。清涼感のあるハツカ糖を含み、高熱と病への恐怖に耐えている作者の心情が詠まれており、中七と薄荷糖の措辞に何とも言えぬ詩趣を感じる。

(天童俳句会 瀬野 史)



7もう会えぬ人に会えそう花の闇 佐竹伸一

ここ数年親しかった人との別れが数多くあった。特に三月初旬には肉身との永別があったが、一目会う事も一声かけることも出来ずに見送らなければならなかった。

私が特選に頂いた句の季語がどのように動いても、この句から感じる哀惜の情は変わらない。俳句が自他共へのメッセージであることに変わらぬ以上、作者と読者に共通する体験なりの思いがあれば、それだけで感銘出来る。

畠山カツ子

8口閉ざし拳握る子山法師 佐竹伸一

この句に触れてすぐさま、何かに負けて悔しい思いをしたのか、叱られたのか、はたまた何かの競技に向けて闘志を燃やしているのかとか想像した。子どもの表情のワンシーンをよく捉えた作品だ。

山法師は天に向かって咲いている。頑張れ！応援しているよ！

木嶋玲子

13花著我や力抜く術知ること 木嶋玲子

力を抜く術と著我の花の取り合わせに作者の内面を感じられた。目を見張るほどの華やかさも無く、何処でも見かける花である。漢名は胡蝶花。蝶が飛ぶような花びら、葉は厚く光沢があり尖っている。結実しても種子は出来ないが、根を張り群がって生き抜く術を知っている。そんなに頑張らなくていいよ！ありのままがいいよ！と諭してくれた一句であった。

松浦廣江

22裸婦像を冬日に曝しホテル閉ざす 東海林光代

長引くコロナ禍に耐え切れず廃業したホテルであろうか。かつては壮麗な姿であった裸婦像が人影のないホテルの前庭で冬日に曝されている。

感傷的な言葉を一切使っていないのに無残な光景が目につかび切なくなる。ざらざらした乾いた情感が際立つ句である。作者は裸婦像に焦点をしばり、厳しい視線で詠み切っている。作者の姿勢に学びたいと思う。

堀 尚子

28手をあげて合図をくれし入学子 柏崎 青波

私の師田川飛旅子は、選句にあたっては「誰も採らない句を採れ」と、その心構えをよく我々に言った。鈴木六林男氏との談義の中から生まれたらしいが、「……のつもりで句をしつかり読め」ということであろう。これはどんな選句の時でもいつの間にか私の腹の底に生ずる言葉となった。だからという訳ではないだろうが、ちよつとした大会や常々の句会では、よく私だけが採った特選句という事が少なくないような気がする。勿論、「ヨシ、ヨシ」等とほくそ笑んでいる訳ではない。

この句、一読して私の脳裏に現れた光景は、入学式の様子も何も見えず、只真新しいランドセルを背負った子供がこちらに向かって何かの合図を送っているだけの何とも不思議な光景である。俳句の詩的曖昧性の得も言はれぬ魅力と言うべきであろう。

大類つとむ

36ひらがなに生きて長寿や猫柳 渡辺竹女

なじみの少ないカタカナ語や漢字の難しい言葉が多くなってきて、ついていけない気がするこの頃。

来し方を振り返って「ひらがな」と捉えているという心境が印象的です。困難な状況もあったかもしれないけれど、ここまで長生きできたという喜びに勝るものはないのでしょうか。季語「猫柳」が明るい感じですよ。 井上康子

37原野とは捨て田捨て畑きぎす行く 大志田勇志

原野は原初の原野と開墾後の原野に二分される。山奥に拓かれた戦後の開拓地を含め、近年では江戸時代に拓かれた集落に近い田畑でさえも原野化が進んでいる。耕作を三年放棄すれば、柳が生い茂り原野へと回帰する。地方の原野化は、確実に急激に進んでいる。

さて、そのような時代背景を活写した掲句。開墾後の原野の起伏は平坦だから、藪とは言え多少の隙間があり小動物にとっては歩きやすい地形をしている。人の行き来はできないが、雉にとつては都合の良い通路だ。捕まえてみようと追いかけてはみたが、ケンケンとゆとりの声を発して、雉は今日も藪の中へと消えていった。

佐竹伸一



鯛釣草

令和五年度山形県現代俳句協会総会

令和五年五月二十七日、山形市民会館に於いて総会が開催されました。

○令和四年度事業報告及び決算

- ・ 会議の開催 役員会4/10 総会6/12
- ・ 会報の発行 第26号 七月 第27号 十二月
- ・ 吟行会 11/18 山形もみじ公園 6名参加

収入の部 単位:円

項目	予算額	決算額	増減	備考
繰越金	265,149	265,149	0	
会費	66,000	60,000	△ 6,000	2,000×30名
本部助成金	40,140	38,340	△ 1,800	1,800×21名 540×1名
雑収入	2	514	512	郵便貯金利息 振替口座残金
合計	371,291	364,003	△ 7,288	

支出の部 単位:円

項目	予算額	決算額	増減	備考
事業費	98,500	78,370	△ 20,130	総会会場費 7,350
				吟行会 5,340
				会報発行など 11,000
				通信・印刷費他 42,710
				役員会補助 9,000
振込口座経費 2,970				
東北大会費用	25,000	0	△ 25,000	県負担金、交通費なし
他団体への助成	6,000	6,000	0	県少女俳句大会 6,000
予備費	240,000	0	△ 240,000	
雑費	1,791	0	△ 1,791	
合計	371,291	84,370	△ 286,921	

収入 364,003 支出 84,370 差引残額 = 279,633

差引残額279,633円を次年度に繰り越します。

収入の部 単位:円

項目	金額	備考
前年度より繰越金	279,633	
会費	64,000	2,000×32名
本部助成金	38,340	1,800×22名 540×1名
雑収入	2	郵便貯金利息
合計	381,975	

支出の部 単位:円

項目	金額	備考
事業費	98,500	総会会場費他 10,000
		会報発行等 13,000
		研修会・吟行会 40,000
		通信、印刷費他 32,000
		振込口座経費 3,500
東北大会費用	28,000	県負担金 10,000 会員旅費補助 18,000
他団体への助成	6,000	少女俳句大会
予備費	237,000	
雑費	12,475	
合計	381,975	

○令和五年度事業計画及び予算

- ・ 会議の開催 役員会・総会 5/27
- ・ 句会 総会後
- ・ 吟行会 紅葉の頃 鶴岡公園及びその周辺
- ・ 会報発行 第28号 七月 第29号 十二月
- ・ 現代俳句東北大会参加 9/17(日) 福島市 コラッセふくしま
- ・ 吟行会については改めてご案内いたします。
- ・ 庄内での開催となります。ぜひご参加ください。
- ・ \*新会員を募集しております。句友やお知り合いに現代俳句協会に興味をお持ちの方がおられましたら事務局長までお知らせください。

○役員(令和四年～五年)

- 会長 大類つとむ
- 副会長 島山カツ子
- 事務局長 佐竹伸一
- 幹事(事務局) 須藤 結
- 幹事(会計) 新野祐子
- 幹事(広報部長) 松浦廣江
- 幹事(広報) 堀 尚子
- 幹事(事業部長) 木嶋玲子
- 監事 柏崎青波
- 監事 東海林光代

〔編集後記〕

今年も半年が過ぎようとしている。庭木に目を配る日々を過ごしている事に感謝。  
コロナ禍もようやく収まって自由に外出できるようになり、句作りに弾みがつきそうだ。吟行会で会員の方々と顔を合わせられたら嬉しい。  
(松浦廣江)

会報28号 令和五年七月発行  
 発行人 大類つとむ  
 発行所 山形県現代俳句協会  
 〒九九七-四二二七  
 尾花沢市中町五-二〇  
 〒九九〇-一五五二  
 朝日町常盤に五二-一  
 佐竹伸一  
 事務局